

伝統工芸再興、交流の場づくり…

加古川、26日 団体代表ら会合

同商議所建設部会の提唱で開く「地域創生オール市民で加古川イキキふるさと創り」のためのワークショップ」の4回目として企画された。

上荘町国包くにほの伝統工芸、国包建具で地域活性化を目指す「国包けやきの会」は昨年7月、町内会の呼び掛けに若者や高齢者が共鳴し



て発足。2カ月後に「国包伝統文化祭」を開くと、市が地方創生で建具の振興に乗り出した。約70人が勉強会を重ね、全国PRへと意気込む。

活性化へ市民の知恵

地方創生を市民の側から推進しようと、加古川市内の市民グループと、企業、団体の代表者が話し合うワークショップが26日、JR加古川駅南の加古川商工会議所で開催される。伝統工芸の再興、多様なベンチ設置による交流の場づくり…。ユニークな活動や提案があり、関係者らは「たくさんの方で取り組みを支援し、知恵を出し合う機運を高めた」と張り切る。

(安藤文暁)

ワークショップには昨年7月下旬から40人前後が2カ月ごとに出席。加古川のキャッチフレーズをまとめ、空き家や放棄田対策、地域コミュニティの再生など6テーマ別に意見を出し合っている。

前川容洋・建設部長は「行政に任せず、一人一人が主体となっ

てまちを動かす。その思いを共有したい」と話す。午後2時半～4時半。無料。事前申し込みが必要。同商議所 振興課 ☎079・424・3355